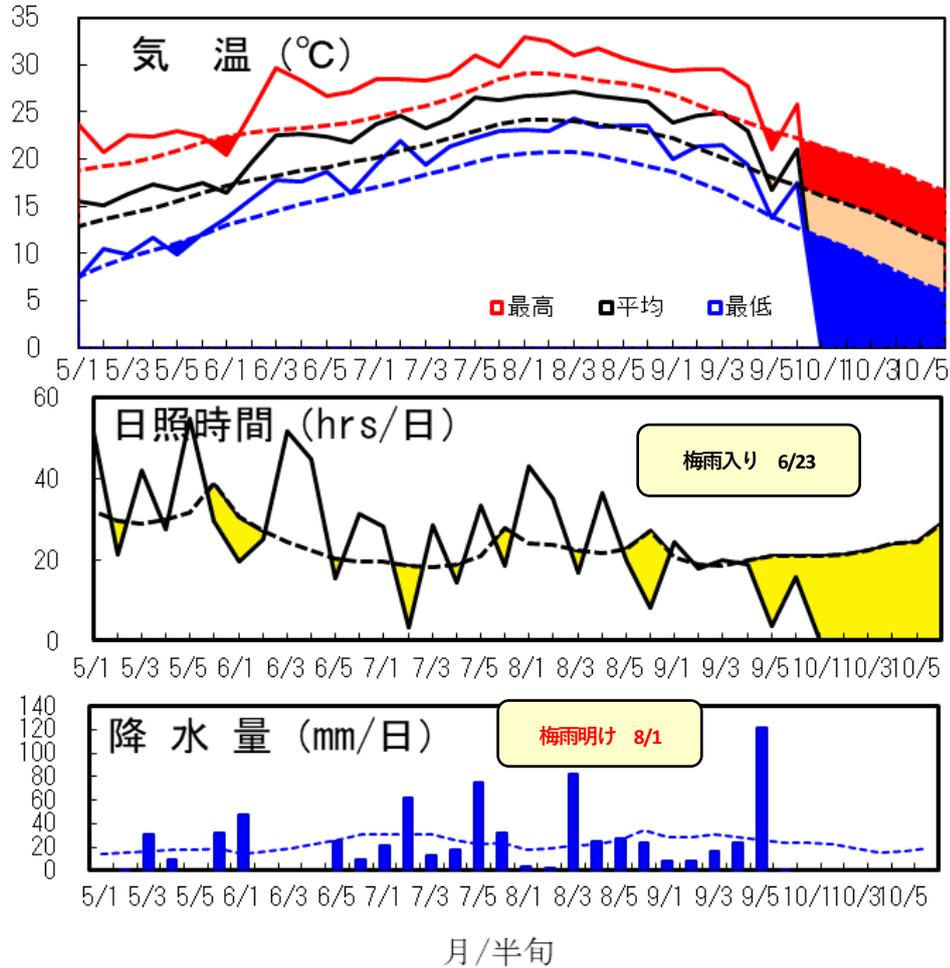


～ 大豆の開花期は 平年並みからやや早い 莢数多い～
 ～タンレイは黄葉期 10月末には成熟期に達する見込み！～

1 気象経過



◆10月3日発表 東北地方の1か月予報(10月5日～11月4日までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・ 天気は、数日の周期で変わり、平年に比べ曇りや雨の日が多い。期間の前半は気温がかなり高くなる見込み。
- ・ 向こう1か月の気温は、高い確率80%、平年並み若しくは低い確率10%。
- ・ 降水量は、多い若しくは平年並みの確率40%、少ない確率20%。
- ・ 日照時間は、多い確率20%、平年並み若しくは少ない確率40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 10/05～11/04	10 (低い) 10 (平年並) 80 (高い)
		1週目 10/05～10/11	10 (低い) 10 (平年並) 80 (高い)
		2週目 10/12～10/18	10 (低い) 10 (平年並) 80 (高い)
		3～4週目 10/19～11/01	10 (低い) 30 (平年並) 60 (高い)
降水量	東北地方	向こう1か月 10/05～11/04	20 (低い) 40 (平年並) 40 (高い)
日照時間	東北地方	向こう1か月 10/05～11/04	40 (低い) 40 (平年並) 20 (高い)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 生育状況

① 5月25日播種

- ・ **タンレイの開花は、平年並みの7月23日であった。** 平年と比較して主茎長は長く前年よりは短い。主茎節数はやや多く、分枝数はやや少なく、総節数はやや少なかった。曇化（まんか）は見られなかった。
- ・ **ミヤギシロメの開花は平年より1日早い7月29日であった。** 平年と比較して主茎長は長く、主茎節数・分枝数・総節数は概ね平年並みであった。生育が旺盛であることから曇化が進行し、倒伏も見られた。

② 6月15日播種（ミヤギシロメ）

- ・ **開花は前年と同じ8月4日であった。** 主茎長は前年より短く、主茎節数・分枝数は前年より少なく、総節数は概ね前年並みであった。

③ 7月5日播種（タンレイ）

- ・ **開花は平年より1日早い8月11日であった。** 主茎長は平年より短く、主茎節数・分枝数・総節数は概ね平年並みであった。

播種期	品種名	開花期（月/日）			主茎長(cm)			主茎節数（節/本）		
		本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差
5/25 播種	タンレイ	7/23	5日遅い	±0日	90	-8	+8	16.9	-0.7	+0.6
	ミヤギシロメ	7/29	2日遅い	1日早い	129	+12	+17	19.0	+2.4	+0.8
6/15播種	ミヤギシロメ	8/4	±0日	-	109	-4	-	16.6	-0.5	-
7/5播種	タンレイ	8/11	1日早い	1日早い	64	-16	-1	13.1	±0	+0.8

◆作況試験における開花期は概ね平年並みであったが、現地調査では高温傾向のため開花がやや早まっている。

播種期	品種名	分枝数（本/本）			総節数（節/本）			着莢節数（節/本）		
		本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差
5/25 播種	タンレイ	2.5	-3.9	-2.3	36	-13	-5	21	-	-8注4)
	ミヤギシロメ	4.8	+0.1	-0.3	67	+14	+10	31	-	+2注4)
6/15播種	ミヤギシロメ	4.3	-0.7	-	51	+1	-	25	-	-
7/5播種	タンレイ	1.6	-1.2	-0.7	20	-4	-2	15	-	±0注4)

注1) 平年差は過去5か年（R1～R5）の平均値との差

注2) 栽植密度は、5/25及び6/15播種が条間75cm×株間20cm、7/5播種が条間75cm×株間10cm（1株2粒播種）

注3) 6/15播種のミヤギシロメはR3年から調査を開始したので、平年値は無い。

注4) 着莢節数は昨年データが無いため、平年差はH30～R4までの平均値との差とした。

(5/25 播種 タンレイ)



(5/25 播種 ミヤギシロメ)



(7/5 播種 タンレイ)

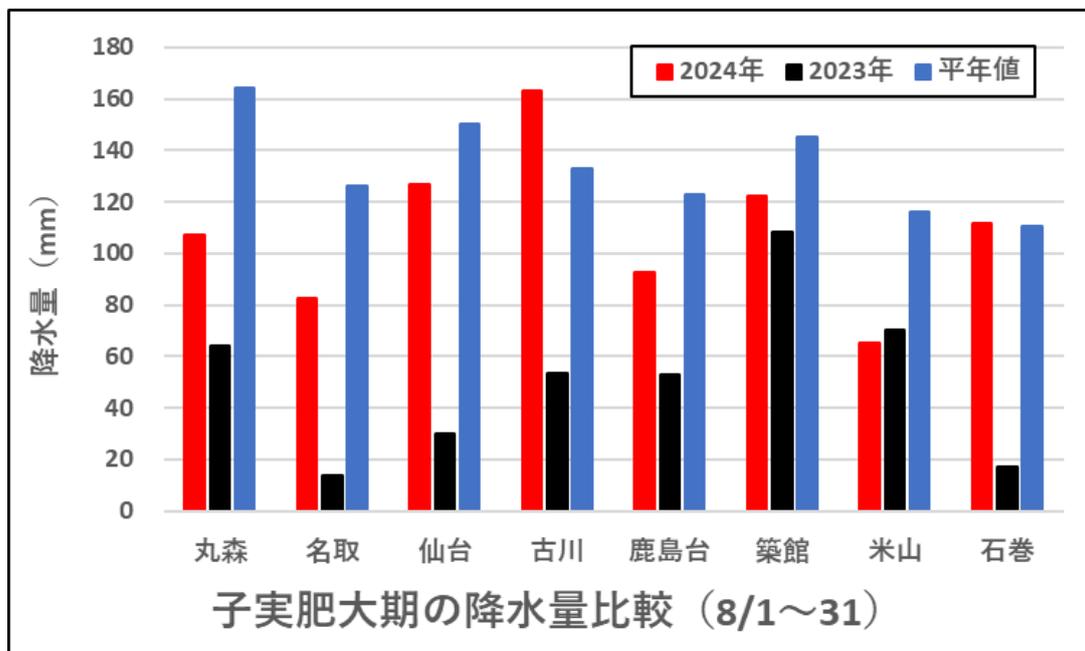


【宮城県古川農業試験場 令和6年度 大豆作況試験 9月3日撮影・9月1日調査】

3 今後の管理

1 開花後（子実肥大期）の降水量

- ・ 本年は高温の影響で、開花期が平年並みからやや早まっている。
- ・ 令和5年産は子実肥大期に当たる8月の降水量が少なく、名取や石巻など仙台湾沿岸地帯では平年の2割程度、丸森や古川など平坦地帯でも平年の5割程度に留まり、大豆の品質が大きく低下した（下図参照）。
- ・ 本年は地域差はあるものの、子実肥大期（8月）の降水量は平年の5割～平年並みであったため、降水量の不足による品質低下は少ないものと推察される。



2 現在の大豆の生育状況



- ・ タンレイは、黄葉期に入りつつある（10月3日撮影 石巻市）。
- ・ 本年は、子実肥大期（8月）の降水量が充分であったため、莢数が多い。

3 収穫に向けて

- ◆ タデ類、アメリカセンダングサ、イヌホオズキなど、雑草の発生が多いほ場が散見されるので、抜き取りを行い、汚粒の発生防止に努める。また、青立ち株も同様に抜き取る。
- ・ 穀粒の水分や莢の乾燥状態を見ながら、適期収穫に努める。
- ・ 乾燥に際しては、子実水分が18%以上の場合は常温で通風し、水分が18%以下になってから温度をかける。
- ・ なお、18%以下の場合の乾燥温度は、30℃以下を目標とする。